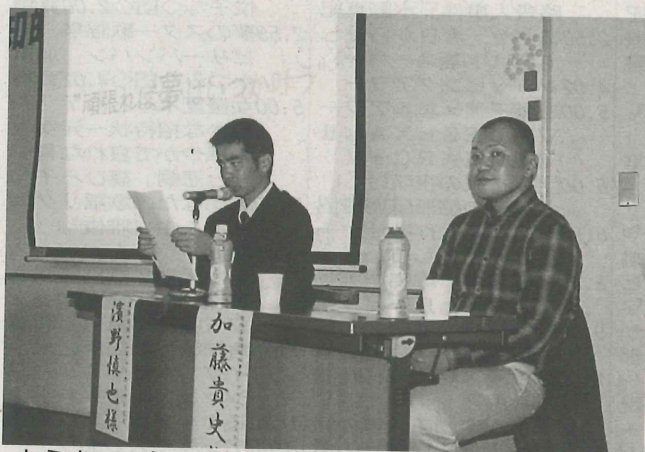


障害者の就労支援や継続的な雇用について当事者や支援者が話し合うセミナーが1日、長崎市内であった。軽度の知的障害があり、県内企業で働く2人が意見発表し、「仕事以外にも趣味を持ち、稼いだお金で楽しむ気持ちを持つこと」が大事などと話した。

障害者の社会参加促進を目的に、県手をつなぐ育成会（甲田裕会長）が開き、約90人が参加。島原市の高齢者介護施設で働く加藤貴史さん（30）と、佐世保市の自動車整備会社に勤める濱野慎也

障害者就労支援セミナー

「お金稼いでやりたいことを」



セミナーで意見発表をする濱野さん（左）と加藤さん
＝長崎市油木町、県立総合体育館

当事者2人が意見発表

長崎

さん（38）が意見発表した。

認知症高齢者の食事や移動の介助をしている加藤さんは、勤続11年目。夜勤など勤務は不規則で重労働だが、休日には趣味の野球観戦やライブ観賞などを楽しんでいる生活を紹介します。「自分でお金を稼いで、やりたいことができるようになって、1人暮らしをするのが目標」と話した。

濱野さんは約1年半前に就職し、きちようめん

な性格を生かして現在は車の洗車を担当。「周りの人に助けられ、楽しく仕事をしている。好きな仕事なので続けたい」と語った。

長崎労働局によると、県内で雇用されている障害者は2739・5人（2015年、短時間労働者は0・5人で換算）で、統計を始めた1977年以降で最多。障害者雇用義務がある民間企業の労働者に占める障害者の割合（実雇用率）は2・14％で、全国平均（1・88％）を上回っている。（三代直矢）